



天明七丁未

歳旦

兼溪菴

都雀

初鶴や遠くはけハ隣中も

立彼正しく向ふ齒圓 志諺

山の裾もや麓へ隈とりて 波音

二

兼溪亭

波音

改ふくこのあろろや初月新

参者を傍りー 蓬萊此山 都雀

松のくハ馬も柳小うのむこ 志諺



勝興庵

志誘

元月やゆ敷ききふはるのや

門へあひのこ新く万葉 波音

ま風の見ゆふまはる車く 都雀

除夜

このあや新き敷乃仕くらえ 波音

恙なく波ふや年若く一花川 志誘

守歳

蛇下小孟婆様てこのあやを悟む
まや青陽のまきくくや

鶴既く羽をくく

中くく乃境の那

兼徳庵

天明七未年

聖節

正保堂

可聞

の神ふやや新の歳百里

千代棠ふてふ門乃本中 露朝

けはむの笑のを樂くふ 里行

吳風軒

露朝

新くくたふまの白くや二つれ新

父母乃恵との光るゆりく 里行

思ふくくまはる西小のゆきて 可聞

三
鬼項館
里行

蓋のあふきをほろふ雑英式

孝経を何より乃よと初 可聞

旅立城暖ふ日一はそりれて 露朝

年尾

寝の糸も記てとくらく昨も式 鬼項館

去よりも今又の惜く苦小なり 吳風軒

丁地のみをまかちりて私小を記す
即更をほせ瓜菜を傳う結結の時を記す
み成信也して茶碗を食はしかりて
全作持てぬまの抱ひるを

むしはくはくは作乞小羽根の吉 正保堂

春興

雲風や海 信乃 都雀

菊溪菴
小唄師

歳旦 洛上 弥生連

生れ世と神代なほし 名所の春 芦吟

玉のを一へも垂れ門を 芦帆

む香くむ茶店へ梅此自ひ来て 愚童

二

海風居
芦帆

中へ小夜む衣紋や初日の出

方よむ多乃 名へ 吉伝 愚童

あふぬの詠を人乃 栄世中て 芦吟

齡去館

愚童

緒うぬもろく物たれく 袖笑ひ

麻上下の繕くんで居候 芦吟

毛深き糸糸府此結衣や侍 芦帆

年抄

けしきよと種小色ありいぬ年 芦吟

柳やいししむんし小川く 芦帆

髪結て下女の果ては後次種 愚童

歳旦

江列九居瀬社中

松竹堂

薰梅

ぬ初てみつけし民乃んう那

を乃恵このうつふ若水 虎竹

を深さのち小ゆこく 鶴巻て 歌枕

虎竹

代は度ふ名のまきや門乃松

まろの日の朝乃白小盛砂 歌枕

山よりと山へ夜一夜の夜若せて 薰梅

三

安々斎

歌枕

心緒ふさぎて梅ふや三ツの物

千代もまゝらん居寝乃益 薰梅

弱き蝶を羽をのす日和して 虎竹

年尾

三百六日二十日成候ては善ぬ 歌枕

年の彼岸する額乃作もか 虎竹

惜しーハ直乃峠の夕日ふ 薰梅

春興

蝶くやとまゝんとして 都雀

物心

歳旦

江列小谷社中

時のくや三ツの河くこの雪乃海 芦牛

去夜乃中ハくま秋津鳴 貞羽

頬杖て想も心をよむやん 素角

二

元日や先振りくき春祈 貞羽

小うこも交てくあは七草 素角

酒乃香の袴千多梅枝よ 芦牛

一二輪梅又思日のくく先

素角

くや清りくく窓の管 芦牛

蝶々小えりう舞はちむ連 貞羽

年尾

万葉う流立平や乃言 芦牛

音掃や大晦日の新此下 貞羽

昔くそ成田小屏風や年忘 素角

春興

弥生連

畑景舎

陽を平二八乃眉の阿くはく 紫山

日

季観堂

雲をれちれちく小あくまぬ真頂山 芦鶉

歳旦

古来希かると安徳えー
年のまをむく之侍りて

南陽軒

りよりも物ふくくく海の長 湖川

せいふ

くち侍や昔忘れぬあくろ持 全

春興

くふもくを又抱らんひく山 全

佐友湖川下丁末の事
むして七十乃より
めしつた成す

収六菴

老まのや言ふもをひきみより 亀童

賀

言折もなくてめつた紀柳外 志諺

笑席を没し小名より
むをを移しゆ事接いで
殺すぬれも席を何う
むるふとを怪ひ

七州乃救中も入るや 志菜賣 湖川

門客湖川古稀乃事成
む入らうくく 出杖の
處へ成す

國小杖はわく 志水也 都雀

松乃花

紀伊郡志水

菊溪庵

都雀

興中

大地の恵をどうもてお笑

喜小名ふりハむくへ

君思乃志しむるやうろ

お終もおちあち乃坊成

いっし次列次き吾到来の

運速

但守

おそくともまうれも
 われもまうれや
 都雀
 じえんりふか



後醍醐天皇
 御製
 春風堂
 是神國心字香

歳旦

河列楠葉
 高卧房

元日やきのふ又きの人乃亦 不染

年内三春

朽やよまき此日殺も依り 全

春興

幼道の上鏡の水やと川鱧 全

年首

あきも神小のま川四方の春 九鮎
 湖水亭

年尾

今ももともはなはた除るは境 全

春興

腰身まの小中首を九草まをた 全

元旦

丹列和知小畑

文章館

晴なく仔細も強波も初日新 吳律

載軸

煉掃や春一き不し一星札 全

春興

先生の門小入より文連の便を感懐し
清洲の文をくろり哉

余念なく一羽の蝶を去るひより 全

東君

怡々亭

入替る礼老之雲ふし一清きうね 芦仙

年抄

外にや恨し鐘もふくしうら 全

春興

阿ちこちと女乃身やあ菜搦 全

歳旦

書林

扇扇堂

多ふりふ後紙もふし店書り 玉指

年抄

生て見れば先んふし候のむ 全

東君

洛西桂

徳恙う礼不復ふや明の春 香堂

年尾

結とふも先始やあし一花 全

歳旦

雨暗樓

元日や清代も清代のお静 何竜

年未

世の憂もふし拂へよふ花 全

元旦

城南佐山社中

寸考庵

棠の戸小獨り笑負やと居乃春 勵之

年尾

酒小居疾侵して喜を留め式 全

春興

をほぬ木くの眺や初見とり 全

聖節

日

青雲舎

早より来り湯代の初日此晴より 何毫

歳末

冬枯ぬ松はえ喜成清ふり 全

春興

梅咲や小窓小より一古唐 全

元旦

同

釣魚亭

神垣小作くわ目乃光り耶 試淵

年抄

喜傳や縁小まゝと喜まより 全

春興

兄才の几巾小吹あぐせ中哉 全

歳旦

同

家並小松の秋きす神日丸 勇子

せんか

万屋の何を配ふとやと此書 全

喜興

白梅や鳥の目まの藪乃深 全

聖節

同

くる喜の老も若さの心ゆ 志水

正尾

眺入ふ梅小竹色の河を 全

春興

踏うけこ小枝も高枝言解け 全

東君

的きりねを釣はしくまぬ袖鳥 芦舟

春興

梅折て若菜ハ人小梅せり 全

春興

むよと追つく可く是ふり 其淵
まき乃道

元旦

江列堅田 岡本

もろ鶴や一ツく小改里 二笑

年内立書

まきさへの尺佳舞葉来て除夜は 全

春興

うぶ子のほろも命ふる蝶ぐ 全

聖節

日

今井

いとせ織たを糸てしや之ケリ 琴子

せんが

写稿も一度小豆のまろりか 全

春興

ま回へぬ庭後之梅乃く 全

歳旦

日堅田 壽連中

若水や霞て目かきうのり春 歌友

年尾

歳とくも留て紙や此花 全

春興

月く小丸う空くや之兒乃棠 全

元旦

日

神津小宮く扇や的乃春 一枝

世が

五引も餅く笑顔や此花 全

春興

ちくちくこあ菜摘り花面哉 全

元旦

日石

伊勢三浦結へかく初見哉 喜笑

除夜

大年八十二むと急乃一花う那 全

春興

梅の香小隣も寐ぬ下結花言 全

東君

湖東中在寺

元朝やたのしきも又改り 春渚

永昌堂

礼儀正しく祝小居寝酒 全

堂の思くぬ舌て啼神々 全

歳暮

餅搗く目か夜暮を待夜う那 全

元旦

江州八日市場

市集軒

居候及て目おさう侍や初日の出 此甲

主候うてふ大姉く乃湯ま 全

枝く小百端り此奉のして 全

揃座

抱と子も正月に此乳母 全

歳旦

予世を遠き別あり

まをむるこ

森花坊

強居近侍お下さ初日之形 成翁

せんが

人々此家ハ巨魁て乃尻 全

元旦

は辨をてを成講のれ

森森坊

改ふ名や右着乃紙 可成

年尾

んよりや有をををまこ此書 全

歳旦

丹列ミノタ

橋良伴

碧くすも祝あく妹居候の酒 思石

せんが

町て善引より午のし 全

吉出

冬のうらハ室之より早け先 全

立春

雪乃しらぬ舌やさうこころ 全

歳旦

横川高槻

柴々菴

おもしろきと思ふ吉野やもれまゝ 枝英

せいふ

ゆひの河ふむらゝや夜記 全

藤和

舟引の脊中乃よや糸河とふ 全

元旦

同

遠浪舎

玉ゆゑの勇や君のまゝ 芦舟

歳暮

松賣り来ていゝとむや門傍 全

春景

山乃言と解春さびや八重葎 全

春興

湖東八日市

紫甲

波しち

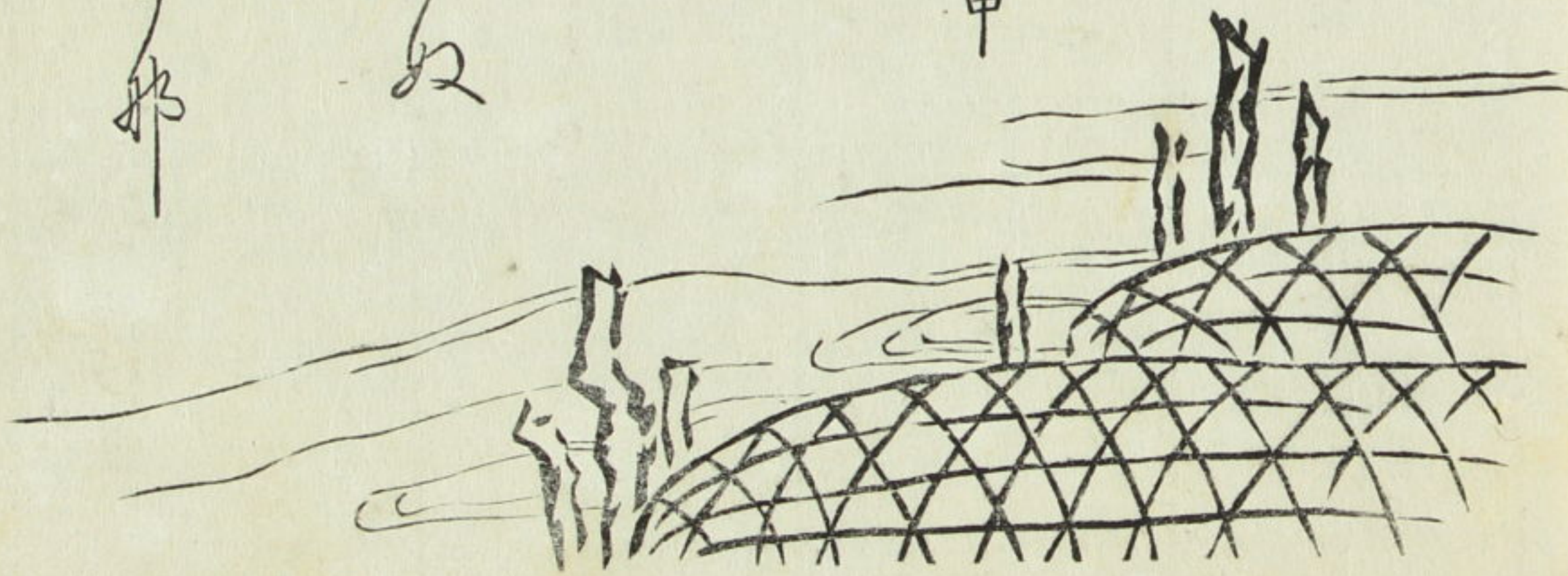
吹人

と

急うぬ

春日

うね



歳旦

杵琴亭

あけらしきころあけのく の乃春 軽風

せいふ

とんちんかちまらやんのみさき 全

春興

抱てり燈籠あきさうやまき風 全

元旦

水八方冬の意不浄ふらうや予も
能きあふ交うんをわりの神く
兼漢唐乃まき世よくくらんそ

丹列十倉 玉里其亭

漢神しややれのみさ唐乃友 遊可

春興

能ひ白ひ拵て扇や管葉 全

歳旦

涪東兼漢の流下閑居

八十八翁

壽ハはたり小ふか米乃春 千山

元旦

江列山上

臨川亭

とろろハ鶏とろり之湯代の春 鷺橋

せいふ

この言うけを替ふるまはふ 全

春興

菜のをやうふひはま立小室ゆ 全

聖節

月苗

九歳

目を及うや礼者を文かき餅 多次郎

元旦

同所

邪しき浮世の春信や唐乃春 武凌

年抄

赤むれうふ人もうし下世書 全

春興

樂々菴

け繞て客情春戸やを惹姑 幾風

歳旦

江洲千僧供
湖千菴

何事もなくて日暮や浄代の春 百之

新黄もへとのりふろゝ急 全

雪の列うる教を結来 全

せんか

ゆりくと年の冥和成 全

越より

春興

旅人乃道を後ふ 全

言解れ

元旦

日所

柳生軒

蓬萊の山を家家よ浄代の春 露誠

下戸とらゝも小居疾此は望 全

暮六又日の新法えものへり 全

せんか

ゆもゝも知くそき乃極ひり 全

春景

生深きや度碧小雨む酌の色 全

春興

知中乃極々れり 全

凡ゆる

麥舟

歳旦

江州富尾

小こくと窓を覗く初日、英之

せいふ

春興のやうさうりやう此書 全

春興

先一ッ縷をのゝらん樹乃む 全

聖節

日南羽田

文玉や一毫二毫ハ去年乃皷 遊竹

年抄

山川を渡り道よりやう此書 全

春興

情一糸ゆるや一乃古はとく 全

元旦

巾く近も袴乃一屯めのみ 君里

せいふ

巻くつす曆やちも音と書 全

春興

東風吹や魚ををむる結被 全

春ノ吟

江州カク

うさく寐の愛いらくやま此取 歌雄

歳旦

丹列日ヲキ
浅田

め方や東かゝるるま乃ん 井鮎

年尾

昔季のと安もせり一さ作をうま 全

春興

春来さやひ城へまも徳の栄え 全

歳旦

洛西カタキ原

某聖軒

天も夕の光を深き白のうらみ 富存

居寝とやいむ破乃垣梅 全

朧曲て夜の神や白うらん 全

年内ノ立春

白のうらみ深きや辛乃 全

北川

春興

江列カタキ

蝶くや又蝶の来て相ひ引 孤友

同

見乳母の望也小礼中 牛子

日石

天明七丁未



歳旦

寄宿植徳本

極星ハ一七は整今朝ハ福壽州

年抄

寄厭離穢土

今更ハ一七ハ 今更ハ一七ハ

春興

寄不寒不熱

神也や外意ハ一七ハ

棋列真上

沙門

雪峯庵月桂

春興

洛東

蘭亭

夕蔭や橋の山若 伯嗅さ 義童

同

蝶々や登川乃水 小たむく 女 宮木

春興

夢未庵

乃端の春を 迎より 花より 其遊

同

永思庵

山遠さ 麓の中や 能乃さ 志 柳糸

歳旦

可笑改

門松や 芝屋河まのさ 二柱 鳳之

春興

陽を や干けり 光る 珠貝 全

元旦

江州十僧供

昔の海を 渡りて 拵り 今さ 春 一笑

猶目か たりや とうきふ 万葉

嘗も 梅小 笑を けくらひて

除夜

年の 尾と思へ 怖さ 今 春 全

春興

室引や ぬきり かな けて 一 笑 全

春興

春果さ や 人も う 記 全

花乃山

春興

江州小谷連

山吹や留て春のぬ一重垣 芦牛

風や先ハ見おぼえのらる柳日 貞羽

垣間見小袖の香蔭一柳日 素角

春興

桂の雪狐月連

巻徳堂

春のくや鞠一延く柳日 釣月

春柳の汎ふ春初よ春の風日 月歌

天思の春日のくくや男山日 實笑

まを中立哉うら守柳日 一志

新見春初更科くはさくぬ又春集ま此
境地さつらう好くもや新集まを
吹あやけは女子の髪月代はつこの
風俗をうら守なさんどか
くもさくもと流りのあつこ
なまふり

おくれくは彼春橋よ 東園

物詣

歳旦

すけとあま日ふも先く清き文日 甫田

せいか

川にや頰城町乃夕暮色 全

汗傾乃禪おくや男 全

新年

能事此よそがくほしと物の春 五彩

の言

水之運の寐心いふ小あがく小 全

春興

おあしと東と堂や入日紀 全

元旦

三醉堂

堂の色とろとも小湯参又う那 睡虎

せいふ

本卦へうくふるもろつ婿この余

六十をも樂しと誠すやと乃言 全

春興

長采子やんさやぐ望此筆之 全

元旦

和州郡山

岩屋舎

えんのりこ四方胡や板表仲 洋水

辛此言

懐む程また海れやの川 全

春興

風のおさ日ハとれありと糸柳 全

年旦

花友亭

月教さ久比のけ小恒巻乃 樂水

甲干そむる万代せんま

春興

浪の吉ハ松不濤りー収干武 全

春興

入相

鐘

未

し

山
はる

國花亭
市僕

歳旦

松芭菴

上下の春もゆさうや明乃春 賀若

年抄

春をわく度れ有るかき 全

春興

二三日初うぬや山はる 全

元旦

江刺中亭 柳波亭
花橋改

あゝあむる二夜の水や袖日紙 瀬石

年末

遠近の鐘乃るゆじし除あはる 全

春興

約繁く名もさうをのさうさ 全

聖節

撰州高槻

臨風軒

元日やしんかのり多飯い梅洞

二月五書

そりけてるむか山の笑ひい全

曆軸

去程ふいの市場い年忘れ 全

又まい書あれい

そこの頁のいはこれ書 全

春興

うらまいん元いはいむ配 全

歳旦

江列ミツヤ

初まやまも虫果よめ鳥 龍水

臘庭

婿いこの教をいるや除夜いは鐘 全

春興

おもたけ小むも眠ふい蝶の香 全

叔気い僅い英いちいは古い笑いのいは
去い穴い小い住いむいあいくいさいもいあいをいあい
ありいろいろい記いまいまい小い多いかいのいはい有いりい
さいのい余いりい作い乃い美い帖い小いむいといひい哉
遠いてい一い勺いをいういふ

そりりいまいれいまいるい 全

恵いや虫いの穴

春興

先正亭

入相ハむくハむ乃賜ハ 胡雪

聖節

江列新堂

花川堂

物つさりと未乃發や 踏菜 正水

まこ穿殺のやえは怪牙

いまハいらのまより 飯ひて 紫甲

せんが

午小鞍赤ねせより 正水

春ノ吟

羨入や 淨所の 彩を 全

英もすく

元旦

江列上羽田

古沢

産野守玉の白や 初日 一知

せんが

筆捨て舌赤一ツと 全

春興

肩つこ子をまへて居る 全

柳れ

東君

同野

久保

續く内宮の 志水

年抄

この末日もよむ 全

春興

拙小室の月へも 全

聖節

同野

久保

美長の安や春若二柱 眠狐

痛座

くふ海つて嬉しく川 全

春興

去の言解て今年乃流式 全

元旦

江列北服

猿月事

君の代や富士をしくく居藤田 柳枝

せいふ

穂を賣り子ふゆすりおやの市 全

春興

あな枝とゆむきしてんる 全

元旦

棋列櫻井谷

齡八十翁

朝日の出梅乃笑良や 初水 如水

せいふ

掃除してむも生るう除夜堂 全

春興

老武者もむうー忘れぬ彼上りや 全

八十路乃腰をむこもむゆまら

歳旦

同

神もや神と君との恵より 明烏

春興

一子権月の余り

梅の香や孫よ空味子乃笑ひ顔 全

東君

同

いさねー陵子もさつとめ乃春 和石

歳旦

洛東 握々菴

辛酉のや今朝の寐を乃んよき 亀應

子内立春

中一のうらよまき此越而や 全

仕老どの

春興

来よまき小又秋見せや袖芝居 全

花はよりの

ゆきさき

花拵庵

如とりて隣の間や

まき乃月

紫更

春興

江列八三

喜風小とこれ歩りや 素行

伯の岐

歳旦

日世の世よ十とせ斗もとまり
りふふとくより右の玉出陣なる
鯛室へ房りくれハ

乙鳥舎

あまのへあーい歳千代袖見親 柳絮

はきぬ涌るを汲や若水

風ふゆきまきから梯のを果せ

除夜

夜ふきの中へより春ユコ 全

春興

初はらうはきと去る末 全

居たりれ

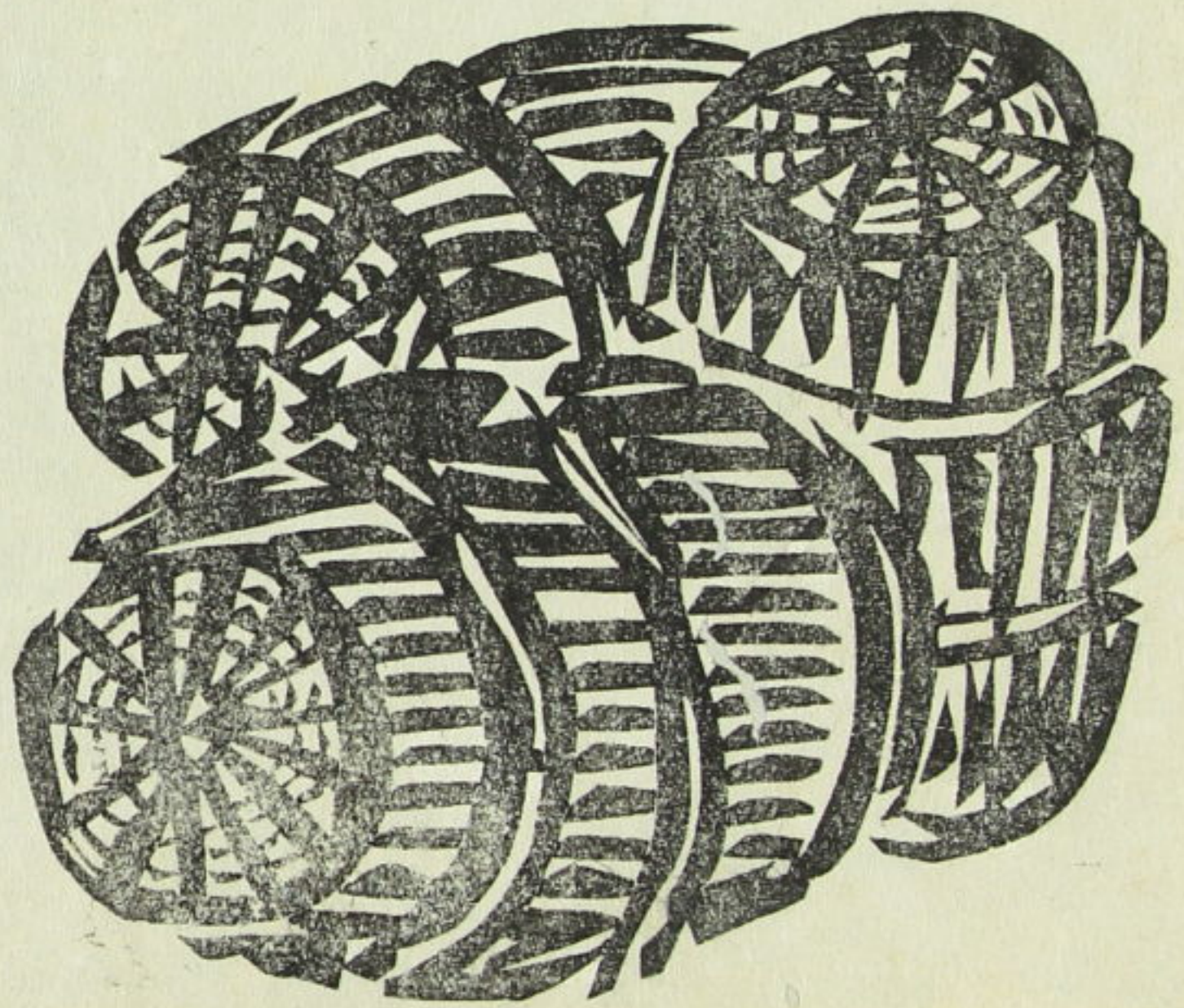
春興

歳暮や

任む

るま

心



抱ふ

鶴

東漢菴社中

八十八翁

千山

春興

棠の蜂乃を従ふる日わふ 有雪

大古く小陰日影や喜ばる 連月

さるるや雪の上小春鶉香 東臯

たふもきの一重梅はちらふ 都雀

梅去よゆ初らぬ芽の恙芽小 富嶺房

色くのち梅乃木小啼より 雪下菴

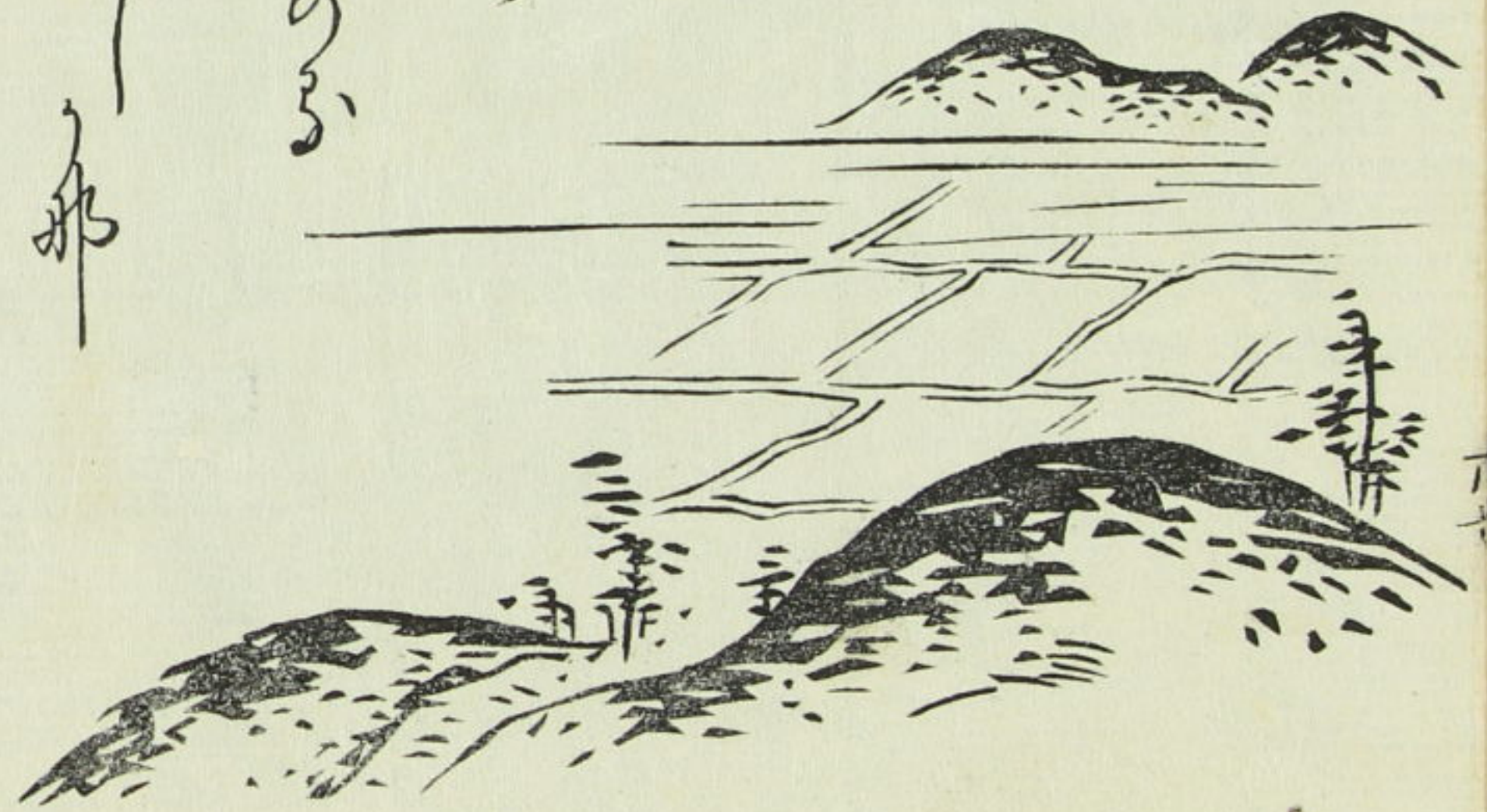
喜興

大原女の

細うち

はのふ

六柳一那



江列中在寺

春渚

聖節

江列中在寺

後事や見ぬ大月の思ひく 一水

せんか

けいを既小くしるし除世は遠 全

春興

梅咲や雪停てもたふひても 全

歳旦

日台居平

鶴城堂

鶉鳴六神小人の湯あそぶ那 故尋

居寝乃益小うつるは連繩 全

年尾

世の莖を拂捨てる昨をう那 全

春興

まを柳の香小相する風情うふ 全

朱

歳旦

江列日野

静謐の月影さるー序代乃春 器水

子孫栄をいと傍る蓬萊

在采さ小柿のりくへ立よりて

冬ノ吟

時ぬするや 夕日ー 吹雪 全

せいか

己の名残消不始をいふやう 全

春興

春もよー目遠くけくる 全

云那

歳末吟

湖東連

己の言さ兼一末もふりくる 止角

女夫ーて互小厄哉拂ひそり 曦丘

たさんーや作を乃市此碎たをれ 淇水

餅搗や今己の力乃有次第 花橋

を嫁のそむけてよむや 紫甲

春興

山姥や丁のかきとらやまに 止角

紀の川や浪小きくえてちふ 橋 曦丘

六波羅や誰うかこくとあふ 指活 淇水

管小首ふけぬ秋障子う那 花橋

湯釜の立ッ登川乃湯や燵の 棠 紫甲

同
まゝ笑やまを乃河そふ 都雀
門むしろ

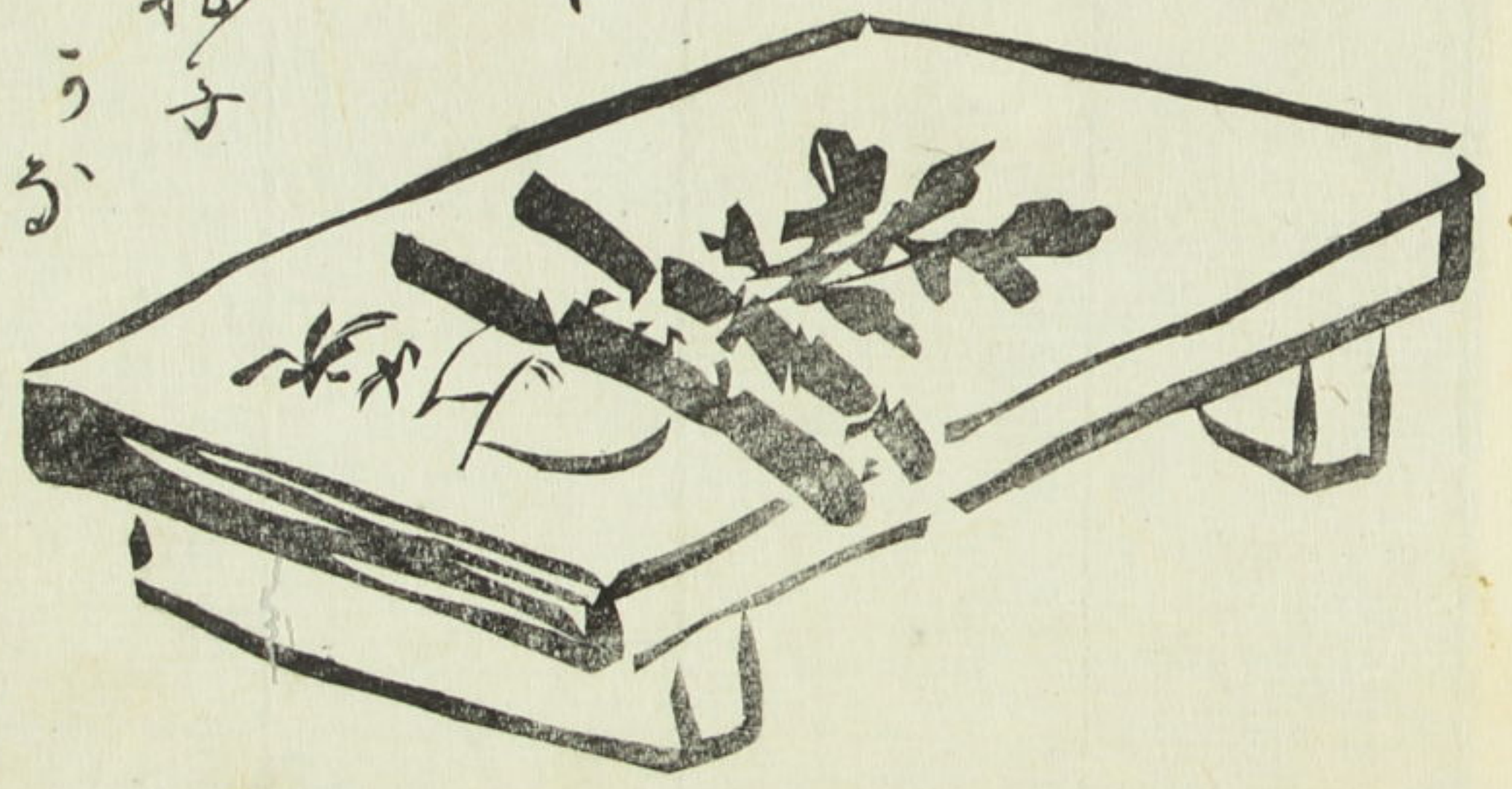
人日

串貝

蘇此

揚子

うか



蘭亭 義童

聖節

けしきもあま〜の梅女 かよ
かよひの那

せいか

と〜〜たも と〜ふ 年乃冥 全
まゆふや

春興

思ひも蝶とほま〜ら 全
せうけい

日

恙草やはほむのもか 女 来三
つ〜ぬのと

春興

うきひり人乃ゆ〜や 松下亭 儿雀
おほげ月

春興

江列ういせ連

あ〜〜燭る夜や恙草登 虎竹

あ〜〜て梅を枕やむれ山 日 歌枕

陽春のちらめく朝や眠る猫 日 薰梅

歳旦

江列相谷

初春や世るゆ〜ら小思〜 小原堂 巻表

せいか

あ〜もその あ〜ぬも 除夜 たの 此鐘 全

春興

谷をわてり先廣全 全

元旦

江州杜某尾

拵きやんらりぬ初日也 苍尊

せいり

うきふも惜さる所の入り也 全

春興

永之日と忘れてさるぬ家職也 全

東君

日所

云の紫も何くさるるを物託去 竹溪

年抄

よりりも皆絶るや 乃言 全

春興

ゆるくこ思ふく 全

柳新

春興

江州ハミン連中

憂しつふ

定化堂

踏雪

たやんら

うら

せいり 旅



歳旦

新八三連中

かくさる腰もの一先や神礼者 六士

長谷川

四十三歳の昔まれば

おもゆるうしろもむの 全

喜とた

春興

吹風のまこも不序じ若菜指 全

元旦

同連

さうらうと雲はほひあけ春 其柳

せいふ

縁掃て白壁くろり痺うか 全

喜と典

砂川の老小終く小結う那 全

歳旦

同連

替ぬを又改て浄衣又う那 花心

吉田

せいふ

隣とす喜ハあふりこの昔 全

元旦

江列真の池

ゆきふ人の笑息やとた乃喜 辻池堂

年末

一とせ成先志免繩や大三十日 全

東君

備前見傳

糸初て弱も勇むや三ッの船 松雨

晩年

むらあつと納りもよ 全

ふろ昔

春興

蝶

眠哉

はるす

臺

う那



洛東山人

李三

西題

歳旦

拱列真上

欲離菴

長采さやらのぬす代り初見歌 可樂

せんか

ふしも渡むぬはは年の川 全

春興

菜のむ小見先ふさるゆあか 全

元旦

沂列西古保志

恙水や花はらんあうとの杯も 露伯

脩座

板砂巾何あて落しこひは苦 全

春興

細虫やゆるさぬかこへけ方の積 全

歳旦

同所

一とせふニツとありぬツの物 花水

老せぬ者一と若き候乃き

とんまりと云はれども若き人

年尾

引ひや寺かゝ里へ鐘乃色 全

春興

日の御小つとる杯乃馳う那 全

去の春
主君の御用器や初家乃松下也
湯せぬ風靴の足むくつふ色は
息をとり入る年を惜むる
嵐湖

春興



産品の

土産

獲



山
はく

浪花社中
素流

歳旦

同社中

神喜や凌子小松の物日歌 千雀

年抄

清家せしは乃凌や宝船 全

春興

牛体多く本もるとをり 全
た乃里

東君

遠信ふ柱たのり 日 舎車

せいふ

白やまを疎よあふ市 全

春興

梅の香や祢の歳を裁曲り 全

元旦

同社中

歌歌のうつつふもほし物日歌 飛関

せいふ

清家の女ハまどしはあふり 全

春ノ吟

きしるは乃面白し物日歌 全

歳旦

同社中

つる玉のくもほえろ八色ハ 酒都

年末

ゆきやつりし書もまほふ 全

春興

夜立ッ中や雲花のあまより 全

春興

七采

片荷

見の

笑ひ

顔

浪花社中

隨布

杜口

春興

桶の糸も北川と同じくぬるぬる 杜口

其綢菴

まきの月や津い人とうきょう工 團更

半化房

親の目も忘れさせたる様ふ 化翁

都南谷

年抄

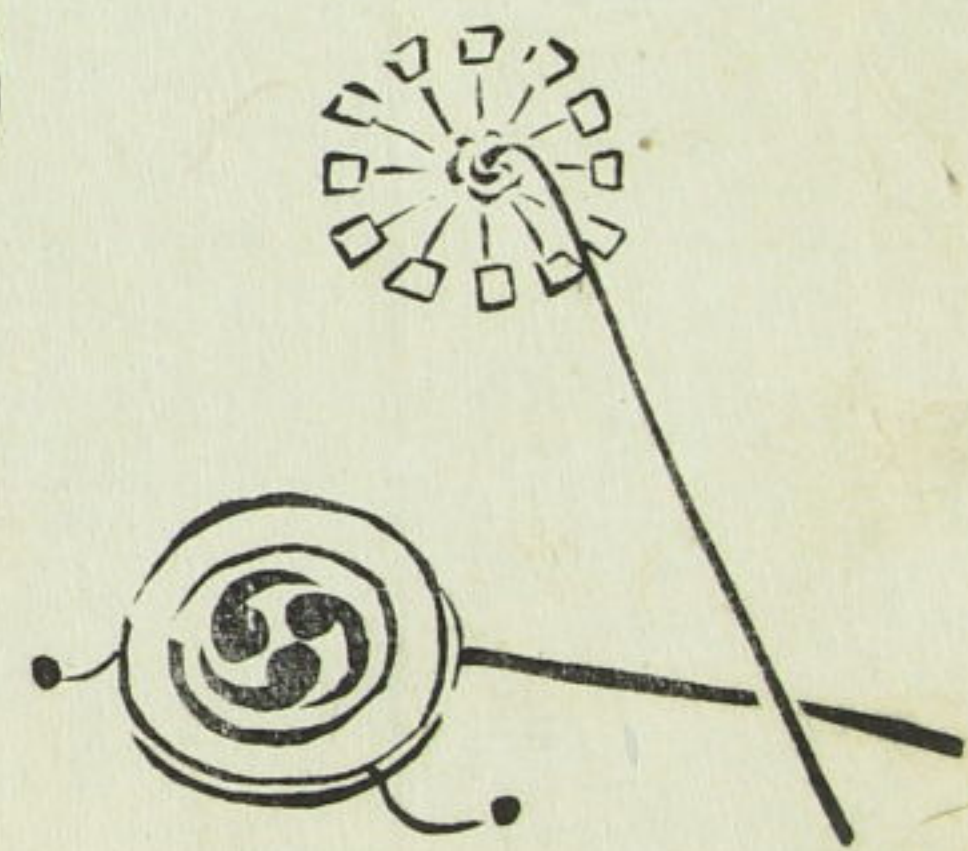
鶴臺を居るうけてあひの北市 朝嘯

五松亭

飽きても飽けぬむへにおと年 丈士

千載堂

看主



兼溪の詞宗四季の集より
世帯に雄英を乞てふのる乃
作才とハなり記

笔とれ七八重も一重と
梅う那
冬古

春興
江列ヒノ

甚北川流くハ舟を漕かえん
夏正房

歳末
蓮車

下系や小羊を洗ふこのれ

試毫
勢陽
神風館
弘臣

東ふくくハ小娘とりて
八日市
紫甲

尺せつ冬牡丹

試毫

尺ばそのくはさう
上又初日歌

歳末

年の言海く水や車道
全

春興

田探帝中又終れて初地
全

元旦

日山田

あゝあて松の系鏡乃初日歌
浙江

年抄

塩電や言小垣てせ
全

くれぬ

歳旦

同所

松竹の氣さへ門乃初日うね 寸大

年未

誰も見てかぬささなやの言 全

東君

同所

静さや初日の思れ給乃色 梵京

せいふ

市立や所ハ言んく年仕業 全

元旦

同所

まくと初日の白ふき面う那 帰一

業抄

波舟や言よけふのこれ 全

春興

清忌乃場

丹列梅迫

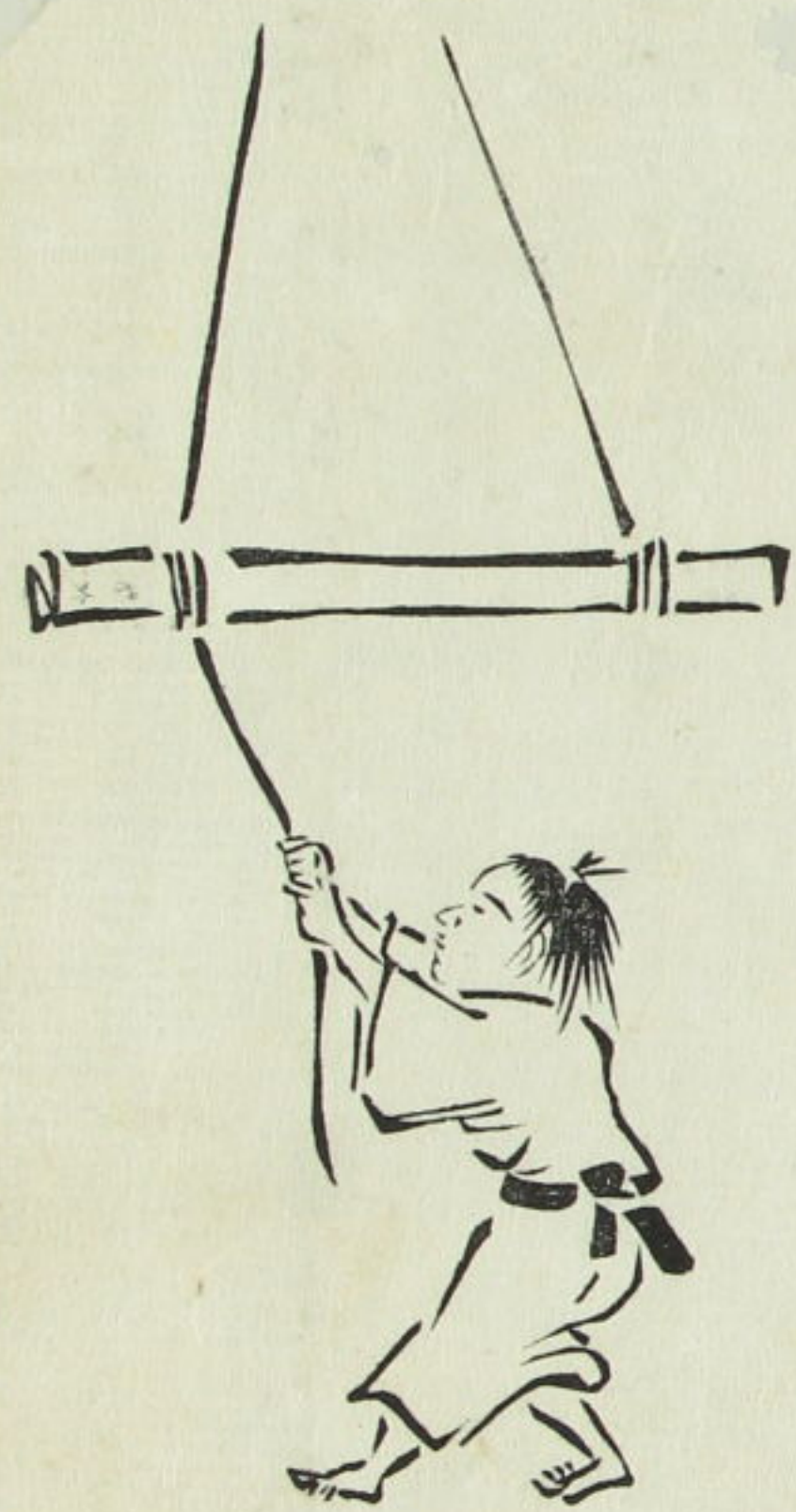
曉里

小袖の

花袋

咲せ

うり



春興

清水寺へ詣て

崑崙舎

千節より川や清水の系梯 扶菜

歳旦

われハ世の中まきよのるをあらひ
門かよりをあらわして

江州羽田

松竹の末杉のき穂長う那 吟松

冥々ふたハ穀とのく山

まき約の芳を舟なうく屍とく

年抄

望月の有かしく中き
妙色江 全

歳旦

樹月庵

去若や持す人初るぬ子小返も 路川

せいふ

遠里よ鏡とつすやこのこれ 全

春興

地勢阿む竹ふすれ念ふ柿も 全

春興

る場をやすしれなかる鳥の泡 巴浪

枕なるや網すいて居る門庭 文藻

同

山静斎

ぬるんき流し
玉淵

春乃好まふ

春興

柳巷亭

放下海乃秋子房もや春此月蘭舎

元旦

浪花

初日浅る春はたまのみきかよふ 朝可

年尾

酒吞ぬ人も越よりやうし此爰 全

聖節

江州中在寺

くら夏や海山まえて知ぬ里 芦月

せんか

そのりしく文妙もや子垣 全

春興

春風よあひさふりまき柳の 全

元旦

江州中在寺

ふりた志の月影やまは乃春 花月

せんか

あえかぬる涙のまはや子垣 全

春興

まき成はばまじり珠のちかすか 全

歳旦

日長光寺邑

まのりうも門や礼者此袴風 其雷

千代百代とむきまけ組 〃

八重九重のちかま果るて 〃

年未

くらまかふる年此掃除や縁拂 全

元旦

賣物やん様〜三日のむら〜 鯉橋

年抄

せむし〜く喜成仕出てひきぬ 全

歳旦

江列上田

字もあふえい〜乃まき 一花堂 如睡

せむし

夏涼ふんゆるや門さる青條 全

春興

春乃鏡生ふりや 際 全

兼溪の洞宗へよむる
は〜よ〜

及ひあき雲の上なる都る

回舎馬もねをの〜て見る

全

歳暮 春興

八十六翁

清水ちう〜もたけひ系 練石

昔小解と塗もぬふむら 其梅

梅草やとめて小隙のぢりとも 嘯山

咲や老てもちよ又か〜 徑童

竹年や昔入とけく多帯 賈友

牛連の妹此見すひや別飛菱 黛山

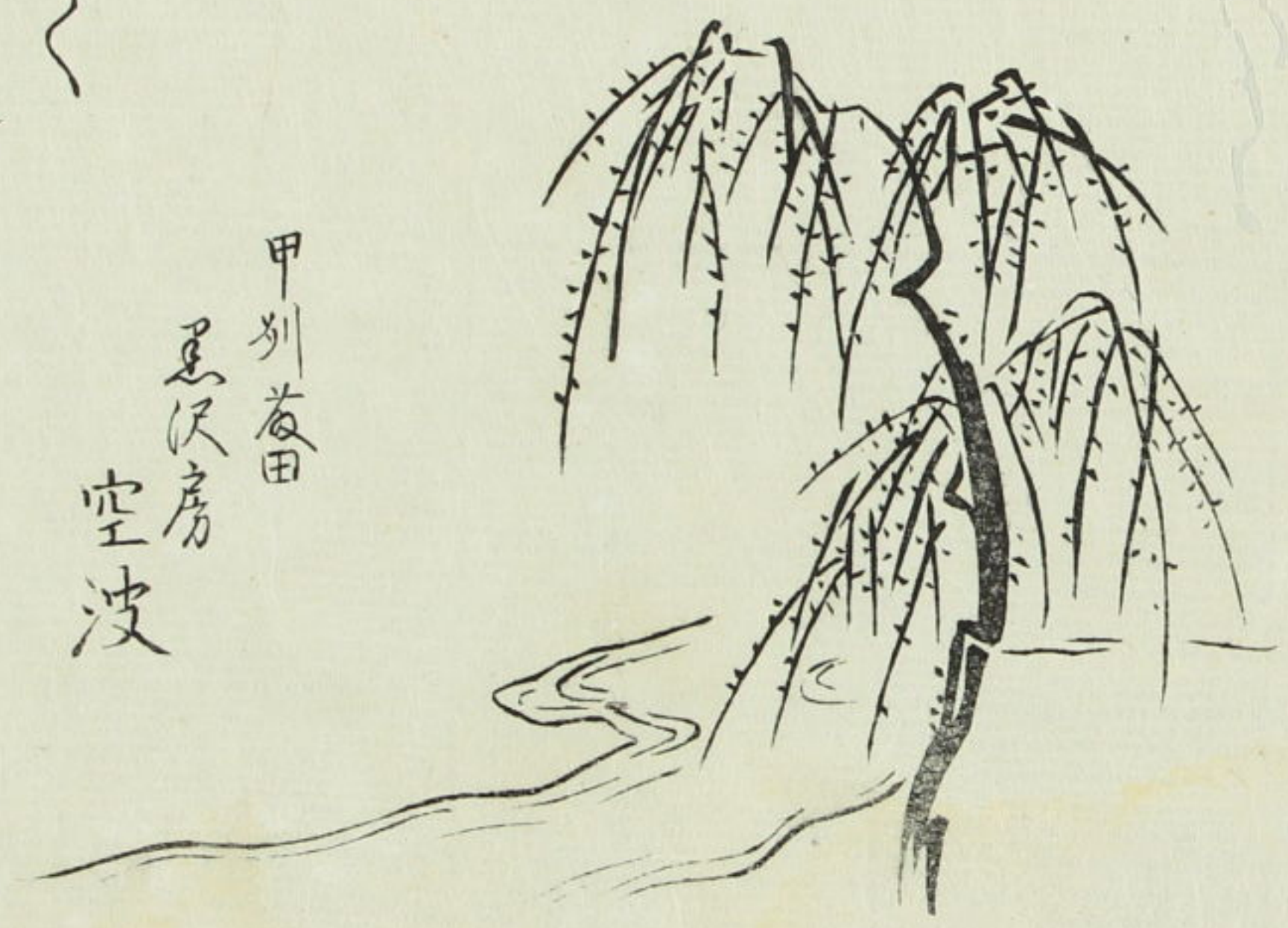
三とせより小画の葉ふり大十日 文誰

秋水小あ〜る妹の泳れ〜 交里

雲屯のよ〜るせや年徒 五株

暮山の雲影津むやみ此れ 来之
 波実又破実小丘乃佳来分 百秀
 笑も人の指ぬ目より 樹小鳥 牛行
 灰よ置小喜侍多やす 拂 乾峰
 乞り出年も尻小あうへり 野童
 言砂も神瀬と無か除灰の境 花街
 若水の位連又繩常ふ砂乞分 一蝶

春興



いさよ

喝く

はそくれ

やんき

蛙う那

甲刈菘田

墨沢房

空波

歳旦

栲列 榎

雪の海とれぬ恵乃初日 梅亭

せいか

能く年を待もむ之二十日 全

人日

巳初の星を戴く若菜分 全

年始

越列大野

もろ喜や水の流も静なる 糸丈

脩底

波ふもりかきまはし 全

中川

聖節

清室はあけ又唱遊山とんきあり
去々々々方小南よりこけけりて

唱八洲の水吉巻一恵方山 来芝

年尾

冬の夜を言からぬを此いと知ら 全

春興

梅の香やかうぬ方のよる屋 全

春興

女はま惜一あゆむを房 其答

春興

見分より花も信の入ほくろ 芙蓉

つやをひのけしめつかに
在りし小勢湯へ瓶とて
葉候乃初宗(戸)とる

披ふはしつやむ乃菰 芙蓉

俳句

無樂し志けししの菰も 都雀
志乃中

元旦

丹列白道洛
平田

七又之や祓の清玉此所の春 洗濯

せんか
休言の何し

伴むきを志うしこうれや 全
とー乃川

春興

浪を連中

多くはかり白ひこふり 小池と
初まこく

ぬきくしてしに美より此林外 小さる

草つみや 夜小 の魚 ねう松
くさる うい美

子芽をあらむ屋根の目をふい いち

さしはふふ計乃 ねよ
こうめや木原北

歳旦

美妙玉園

長言観

初冬やあはむひてくる人ころ 冬古

せし不

辛北尾や揚り坊主の小端立 全

春興

柴門空錠魚人叩 全

黄鳥轉移軒外梅

川ありく柳見えふ 全
岩板り那

日

むのま合きて風乃柳う那 霞夕
日如

歳旦

汲慶亭

初鶉や穿の恵乃拵くも 賀松

せし不

川邊の情や東雲をよなる 全

春興

是うよふ河かぬ眺の山ささる 全

冬の吟

今咲と流も思ひ 枇杷のむ 全

春興

名う〜四糸の系〜
抱ひて

凡中落て抱女〜
古塘

砂の岸

春興

向花亭

春之
喜此之やより又春なりまき苔花

郊花子ハ古とせ余リのむうハ
風雅の周之傳をこし小予法玉川柳
の後迄鄙下唐を踏んで文乃便ふ
ありてせし小曲ハ時を始て都に
也里久く少て俗靡をきくさ先生
うらふり守りておのりまは
他りし昔家し名よ物さかくも
おとハ一毛中あすこし一既又
老人より白家ハまはく入
学をえてるすも人よあはく

系梯

た乃主成

ころり

大武彼

魯口

春興

洛東圓山志誘

起ちくこ末はかこ越路より
のりる日むき田少て

淋くら木乃矣も粗ふや喜目如

ころりハまらつ吹風も
うららてて

長果さや志るを滞る水乃舌

それより備津の漢律さひ
はりかきハ竹生をさハかきみ
こめより道の一村よ小室の
かのまゆらもいとち

菜花むや晴を隔て咲くる花

阿津川のさうわて

かき産の敷のくくや

はく

大湊の町続ハ佳来乃
志けきし

東掛の扇をぬけける雲う那

白鷺大西村へ泣く

洋敷の錦も眠るや春乃由

小松の葉店ありて

陽春やかく之又移し
拾葉軸

ぬふこまりて
うらま日

釣草とれ 横川乃 鐘や さくら

店よ入て休ふ良

床ふ人又思ひ出さる誠語

右下くを拾ふて記す

春興

梅下堂

春は花や日少く物も在は道 若芝

邪花洞宗ハ名一東山
店を懐念して使ふか山
一くて又のそより

桂の詩

春の香は清くまねてあすん 鈎月

即乃店より引きて

家々店ハ菜種の花を桃さくら 全

立喜

朝日新白へふ山草花むより
林葉の里一まを初る
都夢

せんか

路のりれふも末乃松山
やうて也年の波ハ城人 全

春興

春深きや海の果も山も見えん 全

初むハめつ〜このとをふて
其の末とを思ふはつりよはそ
空を小むつたてあつらまひ
〜ハ洗滌浄室明日ハ東山と
何くとも暇々惜むを初る
余りハをふ〜中成思ひ
〜せ〜は原本とち小はれ
あふ休山〜月け入まハ

都雀

あつらまひ
暇とたりぬ

あつらまひ



